



心の強さは経験で作る

武則知義

VOL.

6

2025 秋

男女個人戦

埼玉県剣道大会 (高校の部) 11/18@県立武道館

各校代表者男女二名ずつの出場者で行われる埼玉県剣道大会。これまで西武台の先輩方も勝ち上がった今大会。意気込みを選手4人全員が持つて臨んだ。しかし、剣道は良くも悪くも、勝ちやすく負けやすい。強い選手が必ず勝つわけではない。強豪選手に惜しくも負ける選手、自分の予想と裏腹に負けてしまう選手。剣道は1試合目に勝つのが一番難しい。男子主将が痛感した。宿敵との闘いに敗北し、悔やむ女子主将。次は迷わない。「意気込んだにもかかわらず負ける」経験をした男女主将が心を強くし、今後一層「心の強い」チームを作ってくれると信じています。



EVENT

熱戦の連続!! 第一回西武台高校練成会 11/30@西武台高校体育館

男子

ついに男子も
県チャンピオンを撃破!



▲長野1位に勝つ小澤弥真斗(2年:所沢東中) ▲慶應高と戦う見澤達平(1年:所沢東中)

男子の参加校は慶應義塾(神奈川) 佐久長聖(長野) 等強豪ばかり。助っ人田中先輩の叱咤激励もあり、男子はいい雰囲気で試合を進めた。そして、正念場佐久長聖戦。やはり強豪、厳しいスコアで大将小澤に回った。しかし、今日はホーム戦。「西武台で西武台が負けるわけにはいかない」多くの「西武台」の応援を背負い、小澤自慢の速い展開で攻め立てる。すると引き出されるように相手が面に飛んだ。それを見逃さなかった小澤の見事な出鼻面で勝負あり。チームこそ負けたが記憶に残る一試合であった。男子は実は2名の中学生3年生の見学者がいた。西武台の応援、剣風、雰囲気を体感したその若き選手はこの一日を経て、西武台を第一志望とした。剣道には勝ち負け以外にも「人の心を打つ」という勝利もある。志ある後輩を勝ち取り、また一つ成長した一日であった。

女子

佐久長聖にリベンジ果たす!!

西武台	佐久長聖
山城	川手
小谷田メメ	メ中島
猪ノ口	藤田
福井	コメ
遠藤	岩崎
(5)2-0(2)	
ド	ド本村



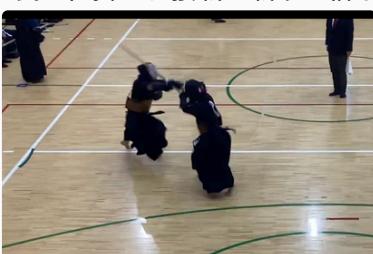
▲チームの勝利を決める福井萌夏(2年:川口市芝東中)

女子の参加校は7校、中でも長野県の佐久長聖高校と長野商業高校との対戦が白熱した。中でも長野県個人優勝者擁する佐久長聖高校には6月東京都新渡戸文化練成会で敗北。雪辱を誓い臨んだ。先鋒山城が落ち着いた試合運びで引き分け。続く小谷田は先制されるが「殴られたら、殴り返します」二本勝ち。中堅猪ノ口も安定して後ろにつなぐ。副将福井戦、一本が欲しい佐久長聖にとどめの諸手小手で一本目、さらに合気を作り、相手の真ん中を割る片手メンが西武台に響いた。西武台の勝利が決まった。遠藤は長野1位本村と戦う。「県1番に勝とう」冬のテーマであった。本村と遠藤の攻めがぶつかり合う。激しい試合になった。踏み込み音、竹刀の振る音、発声すべてに迫力がある試合だった。試合中盤、相手の攻めに崩れない遠藤の返し胴が決まった。会場が沸く。しかし相手も強者、奇しくも同じ返し胴で追いつかれて試合終了。終わってみれば負けなしの完勝。見事にリベンジを果たした。

男女団体戦 経験を得て、リベンジを誓う

西部支部新人大会11/3@城北埼玉

11月3日、城北埼玉高校で西部支部新人大会が開かれた。男子、初戦所沢西高校戦。1年見澤、多田が先陣を切るが、緊張で硬い。こういう経験が心を強くするんです。そういう経験を積むしかないんですよ。だから次は大丈夫です。こういう時のために上級生がいるんです。中堅秋葉、副将上村が抜群の安定感で二人で4本打つ。先輩は強い。だって経験がありますから。大将小澤、果敢に攻め立て一本打つも二本打たれる。二回戦進出。続く川越東戦、オーダーで奇襲を仕掛け、接戦で戦うが惜しくも敗北。県大会での雪辱を誓った。女子は初戦坂戸西戦。1日



に一回しかない1回戦目。一番勝つのが難しい。西武台には珍しく中堅猪ノ口の二本勝ちのみ。これもいい経験です。一年生の頼もしさを感じました。二回戦星野戦。先鋒福井が佐々木に打たれる。続く小谷田が関東個人2位江田に打たれる。1女にスイッチが入る。山城が星野の守護神浦野と魂の引き分け、猪ノ口が樋口に返し胴で先制し、中間で打たれるも引き分け。春のように0-4でなんか負けません。大将遠藤、相手は北村、中学関東個人ベスト8だった。それに対して遠藤は「私に一年をぶつけられてムカつきました」そんな遠藤は3分40秒沈黙。相手の動きを見切っていた。北村の引き面を追いかけ、間合いを調整、相手の攻め気を表から抑え、出鼻面。会場のどよめきとともに試合終了。春に0-4、秋に1-2。次のスコアが楽しみになる一日だった。



▲対北村戦の遠藤里紗(2年:所沢上山口中)

男子

東京都本郷高校に快勝!! 12/19



▲捨てきった面を打つ秋葉芯弥(2年:志木二中) ▲次鋒として戦う多田琥太郎(1年:三芳中)

男子校の名門東京都本郷高校。都心に乗り込んだ。女子が最近結果を残すようになってきた。しかし、西武台は男子も勢いがあるんですよ。女子に負けない!そんな思いで本郷に乗り込んだ。1日に1回しかない1試合目、先鋒上村が仕掛ける。片手面で相手を圧倒し、相手が無理に打ってきた。そこを抜いて面を決める。次鋒多田、積極的に攻め込み引き分け。中堅秋葉、思い切った面二本で勝利。副将見澤、2-0で回ってきた。普通の学校ならこの2勝を守り、チームの勝利を優先するでしょう。しかし西武台は違う。ここでもう一本取りに行き、とどめを刺す。積極的に攻め込み相手に打つ隙を与えない。優勢のまま試合時間一杯。引き分け。結果としてチーム勝利。大将小澤、勝利は決まっているが攻め立てる。引き技を練習する意味は技をつなげるため。小澤が1本仕掛け、相手が守る。間髪入れず崩しを入れた引き技で2本目を仕掛ける。2本とも仕掛けられ相手が「打たないと…」と焦る。そこに小澤の出鼻面が決まる。さらに出小手も決まり二本勝ち。3-0、二年三人で5本打って勝利。



▲次鋒として戦う多田琥太郎(1年:三芳中)

女子

茨城県鹿島学園高校と熱戦!! 11/2



▲試合に向けて円陣を組むチーム西武台



▲返し胴を決める加納百夏(1年:本郷中)

西武台で初めて県外の学校が来校した。茨城県鹿島学園高校、昨年度関東大会に出場し、夏の若潮旗で敗戦した相手だった。しかもこの日はなんと主将で大将を務める遠藤が欠席。西武台としてはある意味で地力が試される場面だった。

1日に1回しかない1試合目、ここでのスコアが大会に一番近い結果だ、そう青山は指導している。1試合目先鋒加納、緊張する場面によく見た返し胴が決まり、一本勝ち。次鋒小谷田も返し胴で一本勝ち。いい滑り出し。しかし中堅山城、副将猪ノ口がそれぞれ一本負けてしまい、白紙に戻った。大将は上段福井、いつもは遠藤が務める大将をどこか重荷に感じたか、試合鋸日が固い。いつもの自慢の片手メンがどこか見えない。しかし、こういう時に役に立つのが「いつもの稽古」。緊迫した場面から引き技から流れを作り、諸手面で一本。安堵する福井の顔が面金から垣間見えた。結果勝利。地力で乗り切った勝利だった。遠藤不在の試合の中で精神的支柱の大しさを知るとともに、頼りっぱなしではいけないと気付かされた一日だった。

祝入賞!!

第40回獨協大学親善剣道大会 第5位 敢闘賞



獨協杯の初戦の相手は男女とも東京学館浦安(千葉)だった。

男子の相手のメンバーは5人とも肉体派が揃っていた。西武台は身体つきで劣勢。ウェイトトレーニングを頑張ろう。試合は先鋒上村が小手抜き面で先制、副将見澤は玄妙な出鼻小手で一本を取るが返されてしまう。終わってみると0-4。悔しい。実は男子最近いいんですよ。遠征でも勝ち星が多くなってきた。一本も取れるようになってきました。西武台高校錬成会でも勝ち越していました。ただガタイ負けしてしまうと苦しい。そして初戦の硬さが目立った。剣道は1回戦を勝つのが1番難しい。どんな強者も負ける可能性があります。どれも全ては経験。経験が心を強くする。経験を積もう。

女子、初戦夏の山内旗錬成会で敗北した学館浦安に挑むが先次敗北。しかしひ女Back3が火を吹く。怪我から復帰した小谷田、剣道から離れた数ヶ月間稽古を見学する日々に焦りと剣道への渴望感、寂しさに何度も涙した。下を向く時間も増えた。しかし腐らず身体作りとリハビリのヨガを信じて続けてきた。その甲斐あってか少しづつ身体

も剣道も良くなり、「鬼攻めの小谷田」が少しづつ帰ってきた。序盤、面と首狩りで攻め立てる。これは布石。相手は防戦一方で後ろに下がりながら避けるシーンが続く。そこで通称「左前」、前に抜ける逆胴のことです。西武台高校錬成会の佐久長聖次鋒中嶋戦と同じ一本です。審判3人の旗が迷いなく上がる。実は小谷田は逆胴がうまいんですよ。さすがです。副将福井、「片手面だけでは勝てない」普通の女の子は片手面が打てないんですけどね。試合開始直後細かい足で相手を追い詰めると相手の足が死に、相手の手元が浮く。諸手小手で一本あり。しかし攻撃の手を緩めない。さらに攻め立て再び相手の手元が浮くところに今度は片手小手。およそ1分程の試合で一気に同点、続くは大将遠藤。返し技のスペシャリストも今では出鼻と崩しが打てるようになりました。以前に東京学館新潟高校木立先生から「返しに頼らない」とアドバイスを貰い実践すること半年余り。終始優勢で表から中心を競り勝ち、面、相手と合気を作り出小手で2本。試合時間2分。逆転勝ち。この勢いのまま勝ち上がること4回戦。準々決勝では健大高崎(群馬県)に敗北。しかし立派なベスト8敢闘賞。表彰式では「西武台高校」のアナウンス。遠藤が賞状を受け取った。今大会は喜々津先輩、小池先輩と中三2名、そして多くの保護者の方が応援に駆けつけてくれた。実は新旧「こたろう」の対面もありました。いい顔で集合写真も撮れました。次は男子が表彰台に登ってくれることを願います。



▲逆転の切り札小谷田青空(2年:所沢向陽中)



▲健大高崎と戦う猪ノ口華羽(1年:新座三中)



▲「心の強さは経験で作る」と学んだ



▲マネージャーいつもありがとう